こんなところに
仏教用語

身近な仏教用語を紹介しています。

灌仏会

元は灌仏会と言います。

約二五〇〇年前、ヒマラヤ山脈の麓に釈迦族が住んでいました。出産を控えた王妃マーヤ夫人が、里帰りの途中ルンビニーの花園で一休みしていると右の脇からお釈迦様が誕生されました。そして四方を七歩進み、右手は天を指し、左手は大地を指し

「天上天下唯我独尊　三界皆苦我当安之」

と宣言します。尊い方の誕生を皆よろこび、龍が天から香湯を灌ぎ祝福をしました。

この仏に灌いだということで灌仏会と言われます。他にも降誕会・仏生会・浴仏会・竜華会・花会式と様々な言い方をされます。花まつりと呼ばれるようになったのは、明治の改暦以後、浄土真宗の僧侶らが日比谷公園でお釈迦様の誕生を祝う法要が起源となったそうです。

何故右の脇腹から誕生されたのか。それは、右は正しさを表し、脇は、古代インドで貴族階級を表すからです。七歩は、迷いの六道を超えるという意味があります。

昨年、今年と出来なかった花まつり。

不良達が道路際に座っていた。小学生の交通安全をしていた。先人観はイカン　若狭恥

勘弁

人はこじきの手をぎゅっと握った。こじきはどんな大金をもらうよりも詩人の手のぬくもりを感謝した…

ツルゲーネフの小説『二グラムの愛』より

今回は、現在でもつかわれる言葉「勘弁」です。これを広辞苑で引きますと、

①考えわきまえること。②過失を許すこと。③やりくりが上手なこと。また、数理に長ずること。

と出てきます。

「勘弁」は元々①で、仏教で用いられていました。臨済宗の語録には勘弁の章が設けられています。勘はしらべる、弁は見分けるという意味があります。師が弟子に、どこまで仏教の理解をしているか問う事を勘弁と言いました。

それは試験の意味合いもありましたので、いわば免許を得る→許される、と②の意味へ変化し現代の勘弁してくれーになりました。

③の勘弁は、あまり用いることは無い例ですが、調べる・見分けるから、計算高いとなったのでしょう。

「今日は勘弁してくれたまえ、一文の持ち合わせもないんだ」こう言いつつ詩